

## 第2回 第3期瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会（要旨）

- 1 日時 平成26年11月6日（木）14時から16時まで
- 2 場所 ニツ橋地域ケアプラザ 多目的室
- 3 出席者 出席22名、欠席3名
- 4 議事要旨

### 内容

#### 1. 第2回策定懇談会の進め方

- ・全域計画 …第3回 骨子案検討 第4回 原案検討
- ・地区別計画策定指針…第3回 原案検討

#### 2. 第1回地域福祉保健計画懇談会の振り返り（資料1）

#### 3. 全域計画について（資料2）

##### ●全域計画についての主な意見

- ①「食育」というテーマが、若いお母さんと地域のつながりを作るきっかけにできるのではないか。
- ②障害者とふれあう取組を各地区で行っている。障害のある方への理解を進める研修会も大事。
- ③学校と地域で活動している団体との交流
- ④地域の困りごと（ひとりひとりの困りごと）は小さい地域で相談できるように  
◇班長さんが訪ねていける地域に育てる（無理のない小さい範囲の見守り）。  
◇地域の中で「助けて」と言える関係づくり。
- ⑤顔の見える関係づくりから始める地域の見守り～防災事業について  
◇地域づくりが災害時にも有用ということを明記。  
◇地福からみると「日ごろからできているからこそ災害時の助け合いにつながる」とし、防災はまた別立てで考えた方がよい。

事務局 顔の見える関係づくりの向こう三軒両隣は、小さい単位が有効、発災時も地域の力で解決できるものとして進めて行きたい。日頃の見守りから災害時までの細かい範囲での顔の見える関係づくりをベースとしたい。

自助や共助の一番の基礎になるものとして取り組みを進めるよう計画でもしっかり押さえていく。

⑥全域計画では外国籍の方とのつながりも位置付けすべき。

⑦瀬谷区らしさという点で「農」を「健康づくり」、「食」、「地産地消」、「男性高齢者の居場所づくり」等に絡めて盛り込めるとよい。

⑧地域での子育て支援についてどう計画に盛り込むかも大切。

◇区役所の関わりがある妊娠期～小学校入学以後の継続した支援があるとよい。

⑨中学・高校生のための居場所の整備が必要

◇中学・高校生の居場所として地区センターやコミスクが全地区に整備されるとよい。

◇施設、保健の拠点整備という視点だけでなく、幅広く施設を活用すること（例えばケアプラザに来て本を読んで良い等）を考えていく必要がある。子どもから高齢、障害、健常を問わず安全に優しく生活できるまちという視点が欲しい。

⑩瀬谷区では来年の6月を目途に米軍施設が返還される。そこに大きな福祉施設を作ったらと言う声もある。

⑪受診率を上げる方策を検討する等、健康寿命を延ばす取組の拡充

⑫ウォーキングが健康長寿を伸ばすためのツールになるとよい。

⑬学校、施設、企業、地域の活動団体、連合町内会、自治会がもっとつながれるとよい  
＜施設とのつながり＞

◇施設の運営推進会議で地域の民生委員・地区社協の人と施設の人との話しあいがあり、グループホームや特養との連携が進んでいる。

＜学校とのつながり＞

◇認知症キャラバンメイトは、サポーター養成講座で子ども達にも教えており、オレンジリングをはめてくれる等子ども達も応えてくれている。その様な活動が全区に進むとよい。

◇ある中学校の地域交流学習会では、生徒と地域の人が地域活動や給食を共にし、地域の人が先生となりいろいろな講座を行うという異世代交流を行っている。生徒が大人になった時、地域の力、見守り等地域活動につながってくれるとよい。

⑭認知症養成講座について人材育成として大事。地福に盛り込むべきものと思う。

⑮虐待やいじめの撲滅について

◇日本体育協会では、昨年度から「あいさつ」「握手」「応援」キャンペーンを行い、スポーツマンシップを盛り上げ、虐待やいじめの問題を撲滅しようとしている。この計画の中に入れられるとよい。

⑯在宅療養に伴う看取りの問題について

◇健康長寿はもちろんだが、在宅療養も課題で看取りについても計画で検討する必要がある。認知症と診断された方を地域等でどう支えていくか。若年性認知症の方や認知症の方を介護する方など在宅の認知症等についても考えて行く必要がある。

---

事務局 認知症サポート関連は高齢・障害支援課が所管。キャラバンメイトは講習を受けたサポーター。瀬谷区独自の「認知症医療連携の検討会」があり、早めに認知症に気付いて早く専門の医療機関につないで軽度で留める。地福計画でもその先の地域で支える仕組みづくりということで検討したい。

---

⑰全区民と行政が一体になって取り組んでいくという考え方について

◇全区民と行政が取り組んでいくという考え方が必要。それは福祉保健の観点、防災上、防犯上の視点等、皆で住みよい町を目指すということ。

⑱統一のテーマを設け、その中で瀬谷区らしさを出せるとよい

◇地区別計画では地区によってばらばらで個性的でよい。全域となるとやはり統一するよなものきちっと掲げてもらって、その取組の中で地区らしさを出すよ。

#### 4. 地区別計画策定指針について

##### ●地区別計画策定指針について意見

①地区支援チームの位置付けを明確にする

◇取組体制で、「区の中に支援チームがあり各課の担当が入っている」と聞いたが、計画書に「地区社協等」ではなく「取組体制を検討しましょう」の中に区を取組方の位置づけがあった方がよいと思う。

事務局 地区支援チームについては資料3の指針の中で解説。「連合・地区社協等」の「等」とは、それに関連する委嘱の委員や各種ボランティア団体のこと。地区別計画を推進するにあたり地区支援チームが支援することを最初に書き、地区支援チームの構成、活動内容は冊子の③を見てくださいという書き方はできる。

②連合と地区社協の活動を一緒にやることを徹底させたい

◇計画を連合と地区社協が一緒にやっているところとそうでないところがあり意識も様々。市から委嘱された委員は一地域の一活動員として一緒にやることを前提にし、自治会の活動と連合の活動を一緒にやることを徹底させたい。

③施設、学校、企業(事業所)等との連携を進める

◇瀬谷消防署主催で、瀬谷区内の高齢者施設(19施設)の防災ネットワークが始まった。  
◇連合や地区社協の定例会に保育園長、特養の方が参加している地区もある。

④地域活動に関心のない高齢者への参加を促す

◇行ってみたいと思えるキャッチフレーズや場所を考える等『きっかけ作り』が大事。

##### ◆愛称について

事務局

◇横浜市は第3期から「よこはま笑顔プラン」と愛称をつけている。愛称をつけていないのは4区(神奈川区・港南区・泉区・瀬谷区)。愛称は公募での選考が多い。

<愛称があるとよい>

◇人目を引くために必要。

◇地区ごとにつけるのがよい。

◇愛称の意味を聞かれることが「地域福祉保健計画」を説明できるきっかけとなる。

<愛称はなくてもよい>

◇愛称では何のプランか分からない。「地域福祉保健計画」と説明し直す必要がある。

<副題があるとよい>

◇愛称だけだとわからないので副題もあわせて載せると分かりやすい。

◇その期ごとに重点テーマになるもの副題としてつければよい。

事務局 ご意見を参考に事務局で検討させてもらう。

次回

平成27年1月29日 (木) 14時~17時

場所: 区役所5階大会議室A B